



第47回 加茂市美術展(市展)開催 (11月1日～5日 市民体育館)

主な内容

- 小池市長の市政報告
 - ・自転車の事故を完全になくするために ②⑥
 - ・建替後の加茂病院へのバスの乗り入れ
に対する要望書……………⑦⑬
- 第11回 加茂菊花展開催……………⑭⑮
- 秋の叙勲……………⑰
- 第47回 加茂市美術展(市展)……………⑰⑲
- 加茂の風土記……………⑳

加茂病院は加茂市の宝 加茂病院をもり立てましょう
「美人の湯」も加茂市の宝 美人の湯をよろしく願いたします

市政報告 その一

加茂市長 小池 清彦

「自転車の事故を完全になくするために」と題する文書を私から小学生・中学生の皆様全員と保護者の皆様にさし上げました。

先日加茂市内で、自転車に乗っていた中学生が自動車にはねられて死亡された、いたましい事故がありました。

そこで私は、加茂市内の小学校と中学校の校長先生全員が集まっておられるところで、市長から次のような趣旨の文書を小・中学生全員と保護者の皆様にさし上げることについて、どう思われるか聞いてみました。

- 1 自転車には、なるべく乗らないようにするのがよいと思います。

- 2 そしてなるべく徒歩かバス等を利用するのがよいと思います。

- 3 どうしても自転車に乗らなければならないときは、(1) 必ずヘルメットを着用するよう心がけてください。(2) 自動車が進む道へは、なるべく出ないように心がけましょう。

- (3) 先生や保護者の方の御指導に従って、交通ルールをよく守ってください。

- (4) 自転車が歩道を通ってもよいことになっているところは、歩道を通ってください。

- (5) 暗くなつてからの自転車の運転は、やめましょう。

これに対して、全ての校長先生が、一人残らず、「今は、小中学生が、あまりにも安易に自転車に乗っているので、ぜひ、そういう文書を出していただきたい。」という趣旨の発言をされました。

そこで私は、次に掲げる文書を小・中学生全員と保護者の皆様にさし上げました。

次に掲げる文書は、保護者宛てのものですが、その中に、小・中学生宛ての文書が入っております。

平成26年10月 1日

保護者の皆様へ

加茂市長 小池清彦

自転車の事故を完全になくするために

先日、加茂市内で、自転車に乗っていた中学生が自動車にはねられて死亡された、いたましい事故がありました。

私達は、自転車の事故を完全になくするために、全力を挙げなければなりません。

自動車がたくさん通る中で、自転車に乗ることは、きわめて危険であることは、誰もが認めることであります。

私も、若い頃は、自転車をこの上なく愛用し、サイクリングを楽しんでおりましたが、当時は、自動車はあまり通らない時代でございました。

しかし、自動車がきわめて多く、ひんぱんに通るようになった、現在においては、私はとても危険なので、自転車に乗る気になれず、自転車の運転をやめざるをえなくなっております。

そこで、小中学生のいたましい自転車の事故を完全になくするための一番の方策は、なるべく自転車に乗らないようにすることであると私は思います。

つきましては、このたび別紙の文書を小中学生の皆様差し上げた

次第でございます。

文書には、なるべく自転車に乗らない方がよいと思うという私の思いと、どうしても自転車に乗らなければならないときは、必ずヘルメットを着用するよう心がけること等の大切なことを書かせていただきました。

皆様におかれましては、私の切なる思いを御理解下さいまして、皆様のこの上なく大切な御子様を十分に指導され、しっかりとお守りして行って下さいますよう、衷心よりお願い申し上げます。

平成26年10月 1日

小学生・中学生の皆さんへ

加茂市長 小 池 清 彦

自転車の事故を完全になくするために

先日、加茂市内で、自転車に乗っていた中学生が自動車にはねられて死亡された、いたましい事故がありました。

私達は、自転車の事故を完全になくするために、一人ひとりが精一杯気を付けなければなりません。

- 1 自動車がたくさん通る中で、自転車に乗ることは、きわめて危険であることは、誰もが認めることです。
- 2 自転車には、なるべく乗らないようにするのがよいと思います。
- 3 そして、なるべく徒歩かバス等を利用するのがよいと思います。
- 4 どうしても自転車に乗らなければならないときは、
 - (1) 必ずヘルメットを着用するよう心がけて下さい。

- (2) 自動車がひんぱんに通る道へは、なるべく出ないように心がけましょう。
- (3) 先生や保護者の方々の御指導に従って、交通ルールをよく守って下さい。
- (4) 歩道を通ってもよいことになっているところは、歩道を通って下さい。
- (5) 暗くなってからの運転は、やめましょう。

市政報告 その二

建替え後の加茂病院にバスロータリーをつくり、バスを乗り入れるようにしていただきたいとの要望書を泉田知事さんに提出いたしました。

要望書の全文は、次のとおりです。

総 第 1019 号
平成26年10月 6日

新潟県知事 泉 田 裕 彦 様

加茂市長 小 池 清 彦

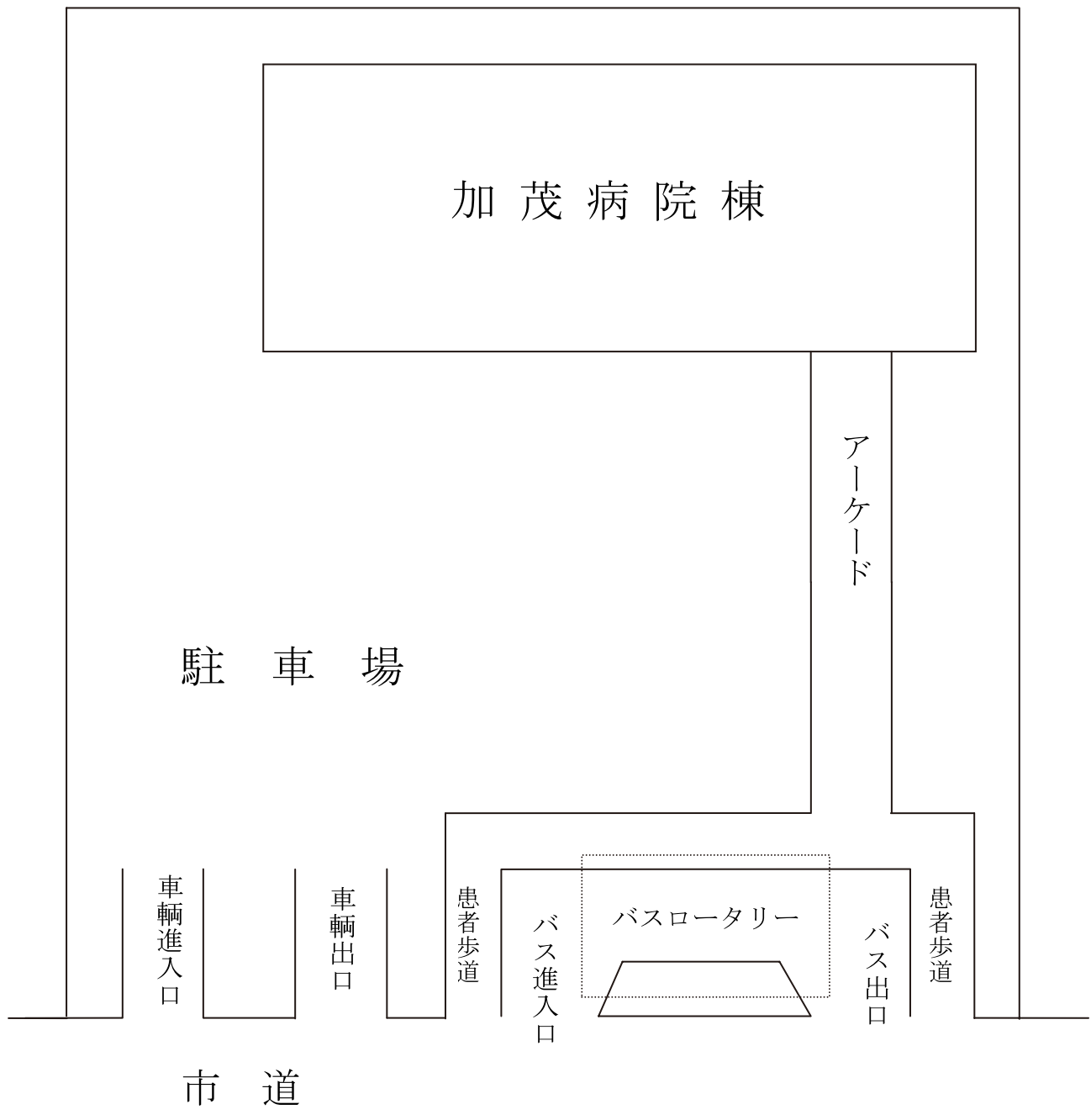
建替後の加茂病院へのバスの乗り入れに対する要望書

- 1 加茂病院に停車するバスの数は、本年12月末で1日に117台（市営バス73台、民間バス44台）もあります。
- 2 このうち加茂病院の構内まで入って来て停車するバスは、今日（平成26年10月6日）現在では1台もなく、12月に新しくできる市営バス路線（長福寺～希望ヶ丘）の14台を構内に停車させることについて、県当局で御検討中です。これは、この路線のみが、加茂病院の構内でターンさせる必要があるためです。
- 3 しかし、構内までバスが入って来る場合は、病院に徒歩で出入りする患者さんと同じ場所をバスが通ることになりますので、ひんぱんにバスを構内に入れることには危険があり、この路線以外のバスは、道路に停車せざるを得ない可能性があります。
- 4 ところが、加茂病院前の道路は、屋根のかかった待合所を造る地積がなく、さらに病院の入口からは、かなりの距離があり、また、道路

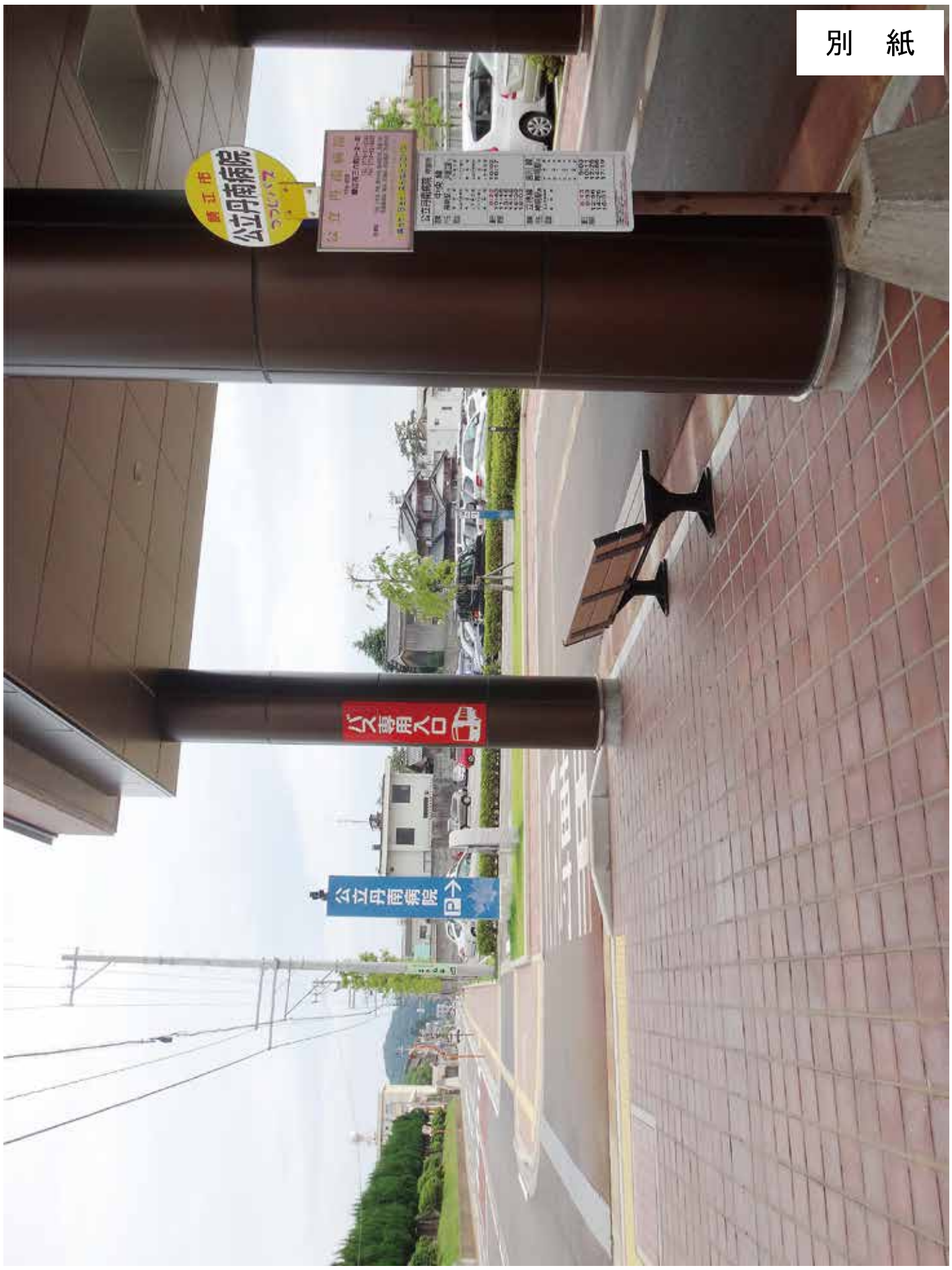
の向こう側でバスに乗る人は、道路を渡らなければなりません。

- 5 患者さんは病人ですから、雨や雪の日には病人が雨や雪の中で立ったままでバスを待つというひどいことになっております。雨や雪が降らなくても、病人が立ったままで相当な時間バスを待っているというのは、つらいことであります。
- 6 ところが、加茂市議会の医療問題特別委員会が、このたび建て替えられた福井県鯖江市の公立丹南病院（179床）を視察した際、この病院が、バスでやって来る患者さんの問題を見事に解決していることを発見し、建て替えられる加茂病院も、建て替えられた公立丹南病院と同じようにして、患者のなやみを解消していただくようお願いすることとした次第であります。
- 7 公立丹南病院には、道路から入ったところにバス専用のロータリーがあり、そのロータリーの乗降場所には屋根がかかっております。そして、その乗降場所から病院の入口までは、アーケードが造ってあり、雨にあたらずに病院へ行き来できるようになっております。そして、バスの屋根がかかった乗降場所には、ベンチが置かれていて、患者さんがそこに腰かけてバスを待つことができるようになっております。
- 8 公立丹南病院のバスロータリーとそこから病院入口までのアーケードの状況は、別紙のとおりとなっております、まことによくできていると思います。
- 9 公立丹南病院へ来るバスは1日69台（コミュニティバス59台、民間10台）だそうであります。一方加茂病院へ来るバスは、1日117台もありますので、このようなロータリーとアーケードは、絶対に必要であると考えます。

10 つきましては、新しく建て替えられる加茂病院において、一例として、下図のようなバスロータリーとアーケードを造っていただきたく、衷心よりお願い申し上げます。



11 以上何とぞよろしく御高配くださいますよう、衷心よりお願い申し上げます。

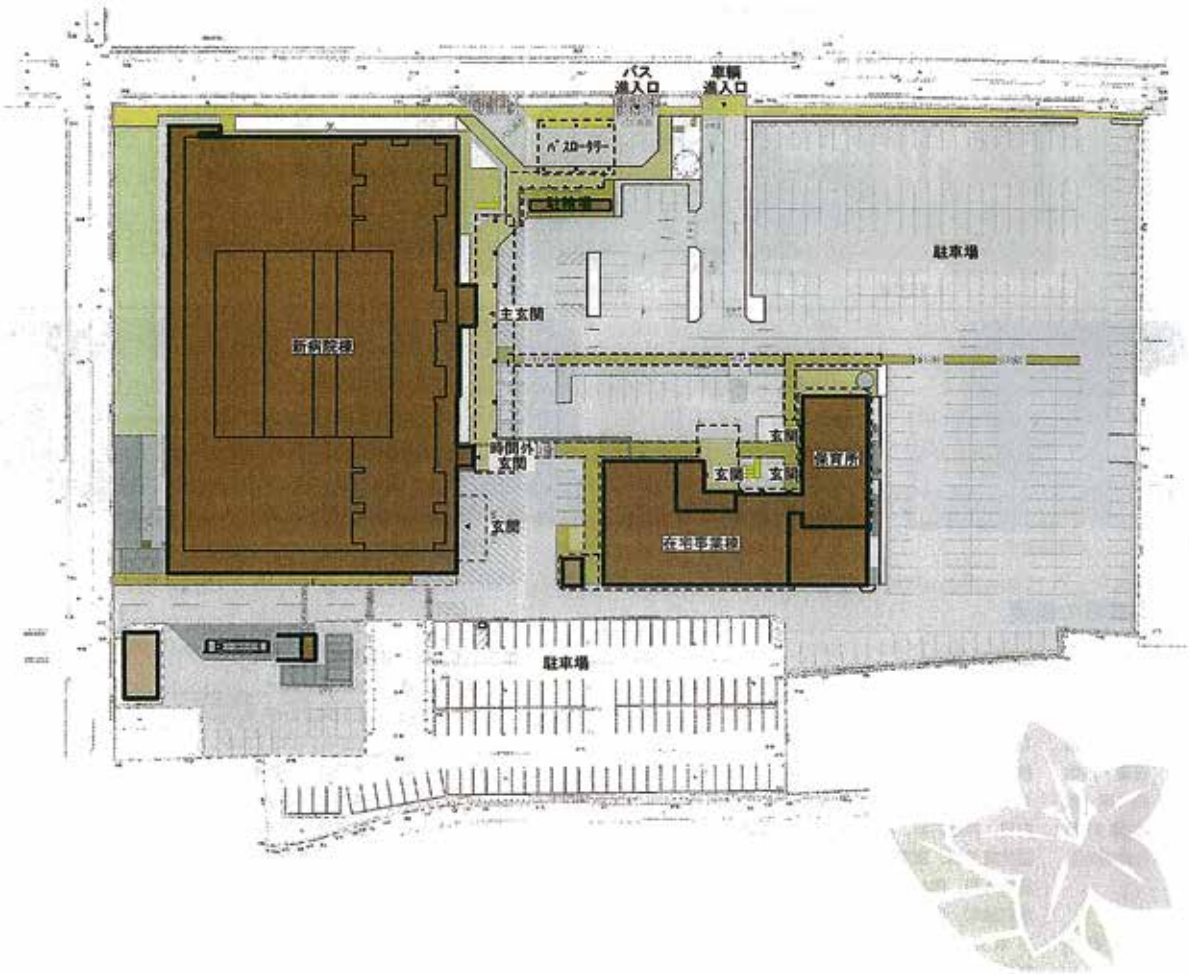


★ 公立丹南病院 改築事業 ★



公立丹南病院組合

配置図



第11回加茂菊花展

～菊香る 越後路～

管物・厚物・懸崖など

七部門を展示



市長賞：清水清松さんの木付け「輝」

菊愛好家の皆さんが育てた作品を展示する第十一回加茂菊花展が、六日から二十四日まで冬鳥越スキーガーデン特設会場に展示されました。今年は県内から百三十九点が集まり、駐車場側につくられた展示台を目じるしに、大勢の皆さんから丹精込めた菊を楽しんでいただきました。

今年から新たに盆栽部門を設け、各部門に出品された作品を新潟県菊花連盟副会長の武田三郎さんと同中菊副部長の小林與三郎さんから審査していただき、各賞が決まりました。

表彰式で小池加茂市長は「菊を愛する人は心の美しい人たちばかりです。長い時間をかけて育てられた菊を大勢の人たちから鑑賞していただきたいです。」とあいさつしました。各賞の審査をされた武田三郎さんからは「今年には花の開花が早く、今の時期に合わせることに大変苦労されたともいますが、きちんと管理されているのがどの鉢からもうかがえます。」と講評をいただきました。

今年の加茂菊花展の総合賞および各部門に入賞された皆さんは次のとおりです。(敬称略)



菊花展出品団体・受賞者の皆さん

総合賞

市長賞 木付け「輝」

清水清松(上下条)

二等賞 管物三幹「泉郷富水」

大竹与市(新潟市南区)

三等賞 中菊「乱れ糸」

成澤一男(新潟市秋葉区)

部門賞

管物三幹：優秀賞「泉郷富水」

大竹与市・一位「彩胡秘宝」安中朝次(上町)・二位「清見の翁」

牛田豊作(田上町)・三位「泉郷情熱」安中朝次、「聖光の朝」高橋輝継(北潟)

厚物三幹：優秀賞「大平の銀峰」



二等賞：大竹与市さんの
管物三幹「泉郷富水」



三等賞：成澤一男さんの
中菊「乱れ糸」



加茂郷菊花展



加茂郷菊花同好会は、毎年、青海神社参道で菊花展を開催しています。今年も十月三十日から十一月四日までの六日間、噴水脇のビニールハウスに約二百点が展示されました。期間中には市展も開催され、大勢の人がさまざまな種類の花や色、香を楽しんでいました。作品の一部は、引き続き、冬鳥越スキーガーデンで開催された加茂菊花展でも展示されました。

牛田勝（田上町）・一位「新銀峰」
大竹与市・二位「富士の新雪」牛
田勝・三位「兼六香菊」安中朝次、
「国華越山」大竹与市、「兼六香
菊」牛田勝

■懸崖：優秀賞「大黃丸」洪谷忍
（新潟市南区）・一位「紫苑」藤
田一三（五泉市）・二位「山端の
雲」小林戦平（新潟市秋葉区）

■七幹立：優秀賞「大平銀峰」大
竹与市・一位「精興右近」牛田
勝・二位「白滝」青木丞輔（燕市）

■盆栽：優秀賞「柳」桐生金作
（五泉市）・一位「みかど」桐生
金作

■中菊：優秀賞「乱れ糸」成澤一

男・一位「弥彦作」大竹与市・二
位「江戸黄八丈」田辺政一（五泉
市）・三位「嵯峨雪」大竹与市

■だるま・福助・切花：優秀賞
「国華金山」大竹与市・一位「国
華金山」大竹与市・二位「泉郷高
峰」大竹与市・三位「国華金山」

■木付け：優秀賞「輝」清水清
松・一位「輝」安中栄五郎（上下
条）・二位「阪神の誉」涌井秀一
（上下条）・三位「山端の雲」小
林戦平



厚物三幹：牛田勝さんの
優秀賞「大平の銀峰」



懸崖：洪谷忍さんの
優秀賞「大黃丸」



七幹立：大竹与市さんの
優秀賞「大平銀峰」



盆栽：桐生金作さんの
優秀賞「柳」



だるま：大竹与市さんの
優秀賞「国華金山」

秋の叙勲

秋の叙勲において、加茂市から二名の方が受章されました。受章された方々からその足跡をうかがいました。

瑞宝双光章 (学校保健功労)



二宮和郎さん
(若宮町1・89歳)

二宮さんは、昭和三十七年から平成十四年まで四十年間にわたり、加茂小学校の校医として子どもたちの成長と健康を見守ってきました。「ただ長く続けただけ。大勢の皆さんから協力をいただいたことに感謝するだけです。」と受章の感想を話されます。

校医を引きうけたころの加茂小学校は児童数千四百人を超える県内でも有数の大規模校だったそうです。三人の医師で加茂小学校の校医を担当していたそうですが、それでも一

人当たりの受け持ち児童数は五、六百名。授業時間に合わせて行われる集団予防接種や健康診断は、大勢の児童を一人ひとり正確に診断するため「騒がしいクラスには厳しい先生」と思われたかもしれないと言。そして長く続けたため加茂小学校で親子を診てきた二宮さんは「身体は格段に大きくなった」とおっしゃいます。食べ物の種類や量・生活リズムが、昭和から平成にかけて大きく変化したといい、「健康が当たり前」と思ってしまうことを心配されています。

毎朝の散歩では、季節や生き物の「瞬間」をカメラに撮ることが日課みたいなものになっているとお話しいただきました。

瑞宝单光章 (消防功労)



中野文衛さん
(岩野・74歳)

中野さんは、昭和四十五年から平成二十二年まで消防団員として活動

し、火事や自然災害への対応、粟ヶ岳などでの山岳遭難の救助活動も行ってきました。受章の知らせに「消防団や消防署、地域の皆さんの協力があつて活動できたことなので、その代表としていただけたもの」と感想を述べられます。

消防団活動の中で、住宅火災や山火事、大雨での水防警戒などがあげられますが、七谷地域での消防団活動として、粟ヶ岳での遭難救助があります。蓄積された知識や経験で捜索活動の要として頼りにされてきました。平成十一年一月に発生した粟ヶ岳での遭難事故では連日捜索に加わり、救助につながりました。

「夏でも続けて登ることはないのに、四日連続、しかも雪の積もった粟ヶ岳を登ったことはこのときばかり」と言い、無事に救助されたときに感じた「安堵感」は今でも忘れられないそうです。また、積雪時の消火栓管理も大事な仕事で、現在の団員たちの作業を見かけると「先輩たちからの活動を今につなぐことができたい」と「ほっ」とするそうです。

今、冬の準備中に消防団活動を見かけると「家族の理解なくしてはできなかつたこと」と話していただきました。



第47回 市展

市展賞受賞作品

11月1日から5日まで、市民体育館で開催された市展（加茂市美術展）には、おおぜいの皆様から鑑賞していただきました。今年の市展で市展賞ほか各賞を受賞された作品を紹介します。



工芸

「輝跡」

斎藤勝吉さん

日本画

「幽谷妙音」

田浦清堂さん



洋画

「静物」

大野美優さん



写真

「おすまし」

渡辺恵子さん



書道

「良寛の歌」

佐藤芳春さん



※今回、彫刻部門に市展賞はありませんでした。

第47回 市展
新潟日報美術振興賞

洋画



「スイング」 亀山良子 さん

日本画



「凌霄花」
相田梨美 さん

彫刻



「鯛(たい)」
宇賀治敏夫 さん

工芸



「燈明」
天摩忍仙 さん

写真



「爽秋」
乙川知昭 さん

書道



「臨 針切」
土田芳苑 さん

第47回 市展

奨励賞受賞作品



日本画

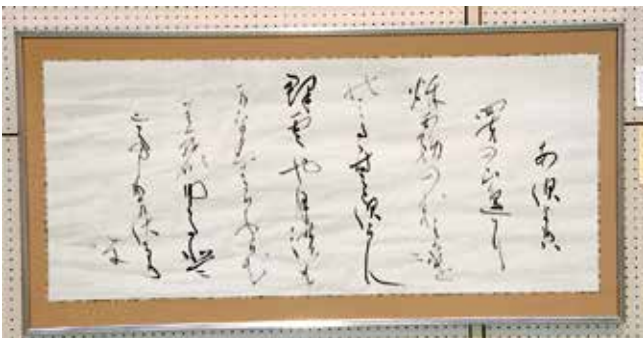
「凜と」 富樫貞子 さん

工芸



「櫛飾小箱」
近藤春男 さん

書道



「金葉和歌集より」 大橋香汀 さん



洋画

「アッ・Pu・ぷ」
吉田如菜 さん

書道



「森鷗外の「高瀬舟」」 菊田静代 さん

書道



「王安石詩」 馬場範子 さん

写真



「あっち、こっち、どっち」
高橋一行 さん

書道

「七言古詩」
長谷川栄一さん



写真



「恐竜木」
山本輝之さん

工芸

「黒百合彩白器」
種橋竹夫さん



写真



「ハイポーズ！」
捧文一さん

写真

「青空がここに」
宇田和美さん



第47回 市展
振興賞受賞作品

書道

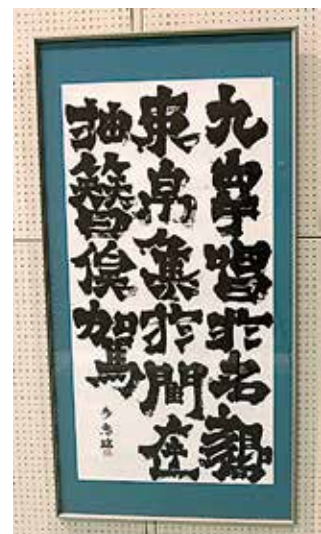
工芸



「花瓶」
曾山大吾さん

書道

「臨 木簡」
山本羅楠さん



「臨 鬘宝子碑」
小林多恵さん

第四十七回市展（加茂市美術展）の各部門で市展賞を受賞された皆さんから受賞された感想や作品についてのコメントをいただきましたのでご紹介します。

日本画

「幽谷妙音」

田浦清堂さん（若宮町二）

この度は、市展賞という栄えある賞をいただき、有難く感謝しております。

水墨画をはじめ二十一年、元同僚より誘われ、喜びとうれしさで入会し、今に至っております。

子供の頃より掛軸・風景画等を描きたいと思っていて、加茂小学校「粟と弥彦を東西に：」のとおり加茂川兩岸、水の流れ、粟ヶ岳、弥彦山を見ながら通学、中学のときは「風も緑の若宮の：」「八幡の森」を見てきました。特に雨上がりの霧晴れが好きです。そんなことでいろんな所へ出掛けては描いたり、写真を撮ったりしております。

この三、四年は描く気力がうすれ：、やめたらダメと思いい何とか続けようとしてきました。

今回の出品は無理とあきらめて

おりましたが、古くからの友と他市街で会い「以前、市展で作品を見たから、今年もみせてくれ」と言われ、うれしくもなり何とかしなければと気を入れ、出品し、まさかの受賞となりました。

これもひとえにご指導いただいている先生をはじめ、画会の皆さん、そして支援していただいた皆様に感謝申し上げます。

洋画

「静物」

大野美優さん（開志学園高校）

栄誉ある市展賞に選んで頂き、ありがとうございます。

私は元々、絵が学びたいという理由で高校を選びました。しかし入学してからの約二年間は思うような作品を創ることが出来ませんでした。三年生になった私は、加茂市展が高校生として最後のチャンスになるだろうと思いい、この作品の制作に取り組みました。学校

で描いている時は、先生方からアドバイスを頂いて何度も手を加え、友人や後輩たちは励まし応援してくれました。

私の作品が市展賞を受賞したという連絡を頂いた時、夢か間違ではないだろうかかと半信半疑でした。しばらくして周囲の方々からお祝いの言葉をかけてもらうようになり、ようやく実感がわいてきました。私の高校生活の中で最も良い思い出になったと思います。支えてくださった先生方や仲間達、家族、また、賞に選んでくださった審査員の先生に感謝し、この賞を励みにこれからも精進していきたいと思えます。

芸

「輝路」

斎藤勝吉さん（矢立）

中村先生に漆の技術とデザインを毎週一回教えて頂き七年になります。最初は何も解らず唯々「かぶれ」との戦いでした。最近は、かぶれがなくなりましたが、作品作りの難しさが見えてきました。

「輝路」は光と影を作品化しようとしてデザインを考えました。悪い



産業センターでの市展表彰式

所は技術と共に先生から指摘していただきながら何度も何度も失敗を繰り返して、春から作品作りを始めました。

貝貼りや錫金具を貼り終わったのが七月の終り頃になりました。上塗と研ぎを経て、市展の搬入一週間前に仕上げる事ができました。手に油と磨き粉を付けて研ぎ上げるのですが、根気のいる作業でした。漆は、見えないところに時間がかかり「研」が漆の仕事であり、研が良ければ最後の研にも影響すると、改めて教えて頂きました。苦労した作品が市展賞をいただき大変驚いています。

研がまだまだ甘い所もあり、次の作品に向けて努力しようと思えます。ありがとうございます。

書道

「良寛の歌」

佐藤芳春さん(寿町)

市展賞をいただき、ありがとうございます。ありがとうございました。

作品制作では、いつも墨の入れ具合に悩み、今回の作品も場所や量を変えてみて最後に書いた作品を出品しました。せっかく新潟に生まれたのだからと思い、良寛の歌を数年前から書いています。今回は梅の歌を書きました。仮名作品は、現在通常使用している平仮名だけでなく、平安時代などに使われていた字も使うため、読めないからわからないと言われることが多いですが、全体の雰囲気を見ていただけたらうれしいです。更に様々な書表現できるように、これからも精進していきたいと思っています。

写真

「おすまじ」

渡辺恵子さん(下鶴森)

この度は、過分なる賞をいただき有難うございます。今から四年前前に、カメラと疎遠になっていた時期がありました。そんな中、教室にお誘いを受けて次第に通うようになり、撮影に行く機会も増え、再度カメラの魅力に引き込まれたような気がします。

この作品のワンショットは、誘われるままに撮影に向いた、市外での秋季大祭での様子をおさめたものです。被写体の女の子を注視しておりました。お支度をする順序の最初が顔を白く塗ることで、塗り終わって鏡を覗き込んだ時の表情には、変化と驚き、私なのかといった内面が表わされていると思います。

この受賞を機に、写真を通じて多くの皆様と触れ合い、よりよいライフワークを築いてまいりたいと思います。本当にありがとうございます。ありがとうございました。

新潟日報美術振興賞

- 【日本画】「凌霄花」相田梨美(神明町2)
- 【洋画】「スイング」亀山良子(矢立)
- 【彫刻】「鯛(たい)」宇賀治敏夫(高須町1)
- 【工芸】「燈明」天摩忍仙(下興屋向)
- 【書道】「臨 針切」土田芳苑(岡ノ町)
- 【写真】「爽秋」乙川知昭(黒水中)

奨励賞

- 【日本画】「凜と」富樫貞子(寿町)
- 【洋画】「アッ・Pu・ぷ」吉田如菜(秋房)
- 【工芸】「櫛飾小箱」近藤春男(赤谷)
- 「黒百合彩白堊」種橋竹夫(寿町)
- 【書道】「王安石詩」馬場範子(番田)
- 「森鷗外の「高瀬舟」」菊田静代(新栄町)
- 「七言古詩」長谷川栄一(神明町2)
- 「金葉和歌集より」大橋香汀(黒水東)
- 【写真】「ハイ ポーズ！」捧 文一(第25区)
- 「あっち、こっち、どっち」高橋一行(寿町)
- 「青空がここに」宇田和美(学校町)
- 「恐竜木」山本輝之(上町)

振興賞

- 【工芸】「花瓶」曾山大吾(加茂農林高校)
- 【書道】「臨 木簡」山本羅楠(加茂高校)
- 「臨 爨宝子碑」小林多恵(加茂高校)



出品作品の審査の様子



同時に開催された公民館作品展



急に痛みが

消えるのはなぜ？

Q この間からむし歯が痛くて痛くて。でも「歯医者さんに行かなきゃ」と思っていたら、いつの間にか痛みが消えました。自然に炎症が治まったってことですか？

A とんでもない、違います。炎症がひどすぎて歯髄が死んでしまったか、歯のなかに溜まり歯髄を圧迫していた膿が何かの拍子に排出されたのでしょうか。すぐに歯科医院に行きましょう。このままでは歯を失ってしまいますよ。

たしかにむし歯の痛みは、あるときは激烈で耐え難いですが、その時期を超えると、うそのように消えてしまうことがあります。

「歯が痛くならないとなかなか歯科医院に行かない」という患者さんから、「炎症が治まったみたいだ」とか、「これでまたしばらく歯医者さんに行かなくてすむ」

とお考えかもしれません。

しかし患者さんのご希望とは裏腹に、歯のなかの炎症はむしろ広がり、破壊が進んでいるはずで、象牙質が崩れ、歯に完全に穴が開くことで、内部に溜まって歯髄を圧迫していた膿が外に出て内圧が下がると痛みがふっとラクになるのです。そしてこれまで警報を鳴らしてくれていた歯髄が死んでしまうと、ひとときの平穏が訪れます。

このあと細菌感染は、周りのさらに多くの組織へと広がっていきます。そして噛む刺激が加わったり、からだの抵抗力が落ちたときに、突然火がついたように痛みます。急に痛みが消えたのは、束の



間の「嵐の前の静けさ」なのです。歯髄が細菌感染してひどい炎症が起きると、けっして自然に治癒することはありません。治療を先延ばししていると、歯を失ってしまうかもしれません。

むし歯に気づいたら、小さなうちに歯科医院に行くのはもちろん、定期的にメンテナンスを受けていると、早期発見とむし歯予防に効果があります。

(加茂市歯科医師会)

第57回 総体結果



駅伝競走

期 日 十一月三日

会 場 陸上競技場周辺周回コース

【3区間 6.6 km】

▼中学生女子の部①田上中学校 B 25分48秒②加茂中学校 A③田上中学校 C ▼高校一般女子の部①加茂農林高校陸上競技部29分7秒(大会新)②青い珊瑚林36分33秒(大会新)

【5区間 11 km コース】

▼小学生男子の部①加茂ジュニア 52分21秒②加茂レッドファイヤー③チーム須田 ▼小学生女子の部①女子ドッジボールクラブ53分53秒②加茂ジュニア ▼中学生男子の部①ダメよくダメダメ42分29秒②田上中学校 A③Jr陸上 ▼高校一般



バレーボール

期 日 十一月三日

会 場 田上中学校

【中学生の部】▼女子①葵中学校 ②七谷中学校③加茂中学校



バスケットボール

期 日 十一月二十三日

会 場 加茂中体育館、勤労者体育センター

【中学生男子の部】①葵中学校 A ②葵中学校 B

【一般高校男子の部】① MUTI UTI ② ホールズ

諏訪ノ沢遺跡

弥生時代中期の石斧

ここに紹介する二点の石斧は、七谷診療所の初代所長であった横山彰太郎氏が収集した資料のひとつである。現在は長岡市立科学博物館に所蔵されている。

①の資料に「昭和廿年、七谷小学校前川ヨリ出土、茂野繁之助ヨリ受」と記されている。②も同種類であることや保管状況から二点とも同じ場所から出土したものと考えられる。注記に見える下高柳の字川向では早くから縄文時代の川向遺跡が知られていたが、この石斧は七谷小学校前とあることや茂野氏の説明を聞いて字諏訪ノ

沢の段丘上（諏訪ノ沢遺跡）からの出土品と判断した。

ともに手に取るとずっしりとした重量感がある。①は長さ約一四

cm、幅約六cm、重さ約六三四g、石材は安山岩（あんざんがん）である。②は長さ約一四cm、幅約七cm、重さ約六〇六g、石材は閃緑岩（せんりよくがん）である。②の方がやや幅が大きい。この石斧は刃部の形が二枚貝のハマグリに似ていることから「大型蛤刃石斧

加茂の風土記

諏訪ノ沢遺跡出土の石斧
(長岡市科学博物館提供)



（ふとがたはまぐりばせきふ）」と呼ばれる。大型蛤刃石斧は弥生時代になって水稻農耕技術とともに朝鮮半島からもたらされた「大陸系磨製石器（たいりくけいませいせつき）」のひとつとされる。主に樹木の伐採に使用された。新潟県内では弥生時代中期後半の遺跡から出土する例が多い。

興味深いのはこの石斧が作られた場所である。石材が長野県の善光寺平周辺の石材に類似し、その形態の特徴も似ていることから信州方面からの搬入品と考えられる。千曲川（ちくまがわ）・信濃川から加茂川を通じて本遺跡へもたらされたのである。

弥生時代中期後半頃の加茂周辺では北陸系の土器を主体とする中で信州の栗林式土器（くりばやしきどき）が広く分布することが知られている。この石斧の流通に栗林式土器を携えた人との交流が背景にある。

加茂では弥生時代の遺跡が少なく、わからないことが多い。わずかに二点の石器ではあるが、弥生時代を紐解くうえで大変貴重な考古資料である。

(伊藤秀和)

あーいせつ

ふるさと寄付金
▼笠原順一さん（東京都）から
五万円

人口のうごき

11月1日現在
世帯 10,305 (+2)
人口 29,274 (-33)
男 14,147 (-17)
女 15,127 (-16)
()内は前月比
(10月異動分)
出生 10 (男4女6)
死亡 35 (男20女15)
転出 40 転入 32